

# 久留米市地場企業景況調査レポート(平成24年4月～6月期調査分)

## <調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

## <調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

## <調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

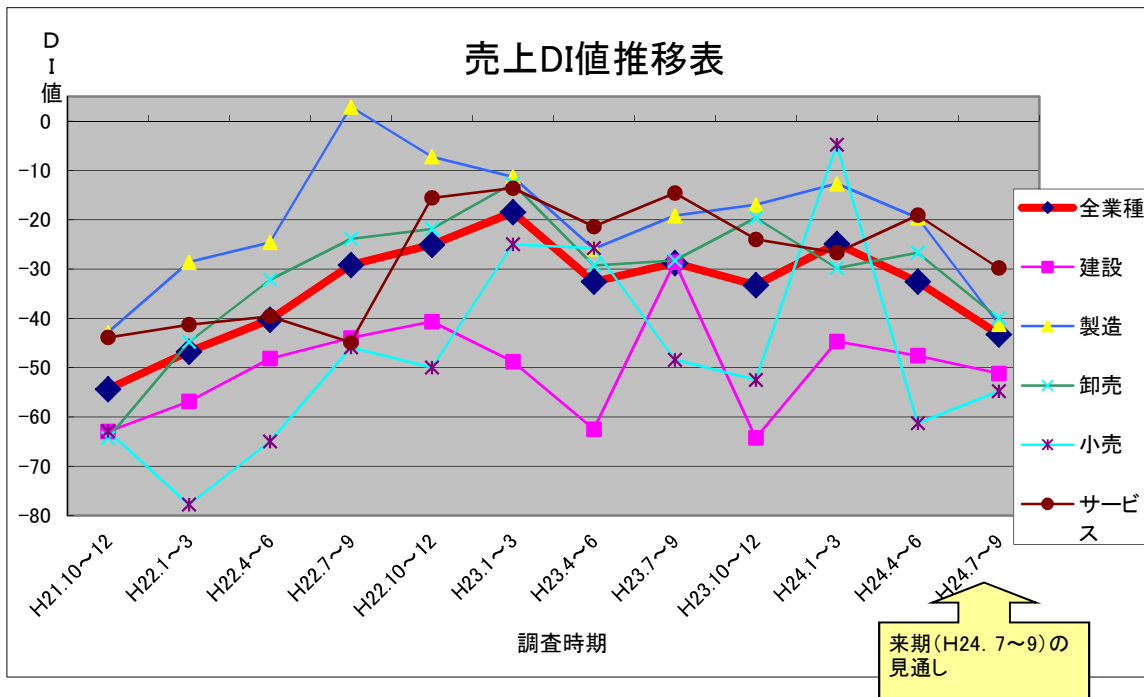
## <DI値とは>

DI(ディーアイ。Diffusion Index: 景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

## <平成24年4月～6月期調査分回収結果>

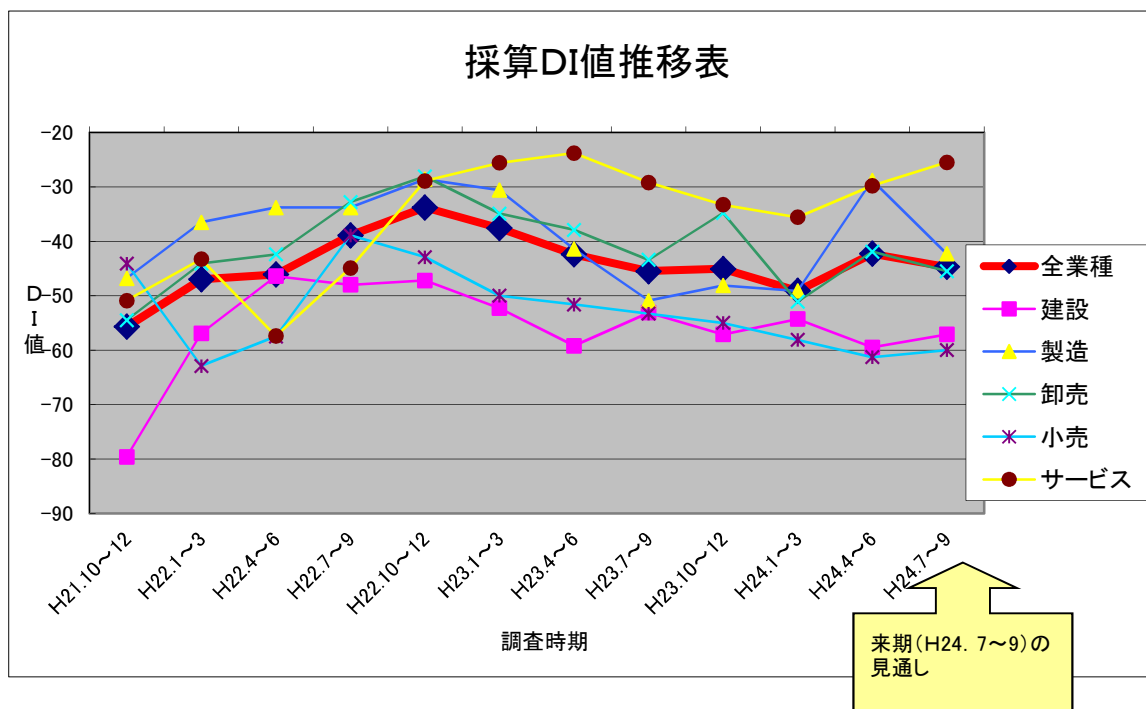
業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	217	36.2%
建設業	120	42	35.0%
製造業	120	52	43.3%
卸売業	120	45	37.5%
小売業	120	31	25.8%
サービス業	120	47	39.2%



今期(H24. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「**売上面**」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は47社(前期比2社減)、「減少した」と回答した企業は117社(前期比15社増)、「横ばいである」と答えた企業は51社(前期比11社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は縮小して▲32. 6となり、前期比で7. 7P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲47. 6(前期比2. 9P悪化)、製造業▲19. 6(前期比6. 9P悪化)、卸売業▲26. 7(前期比3. 1P好転)、小売業▲61. 3(前期比56. 5P悪化)、サービス業▲19. 1(前期比7. 6P好転)となった。

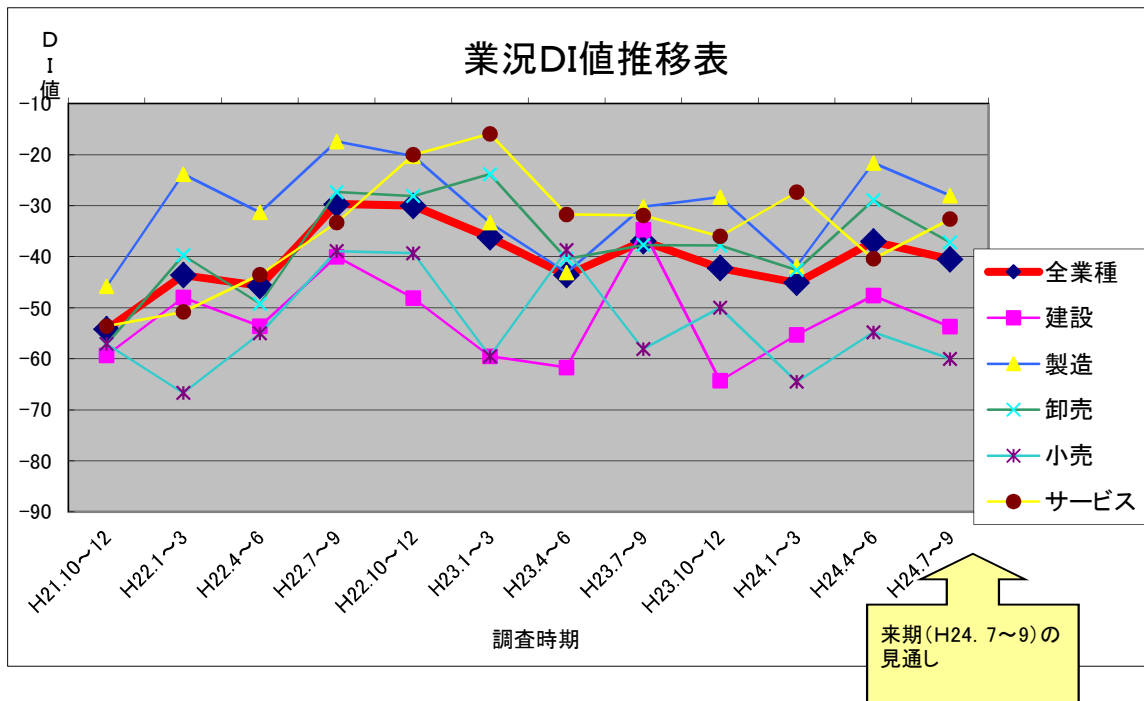
来期(H24. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲43. 3と4. 6P悪化する見込み。



今期(H24. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「**採算面**」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は24社(前期比7社増)、「悪化した」と回答した企業は115社(前期比12社減)、「横ばいである」と答えた企業は76社(前期比15社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は拡大して▲42. 3となり、前期比で12P好転した。

業種別に見ると、建設業▲59. 5(前期比5. 2P悪化)、製造業▲28. 8(前期比20. 3P好転)、卸売業▲41. 9(前期比9. 2P好転)、小売業▲61. 3(前期比3. 2P悪化)、サービス業▲29. 8(前期比5. 8P好転)となった。

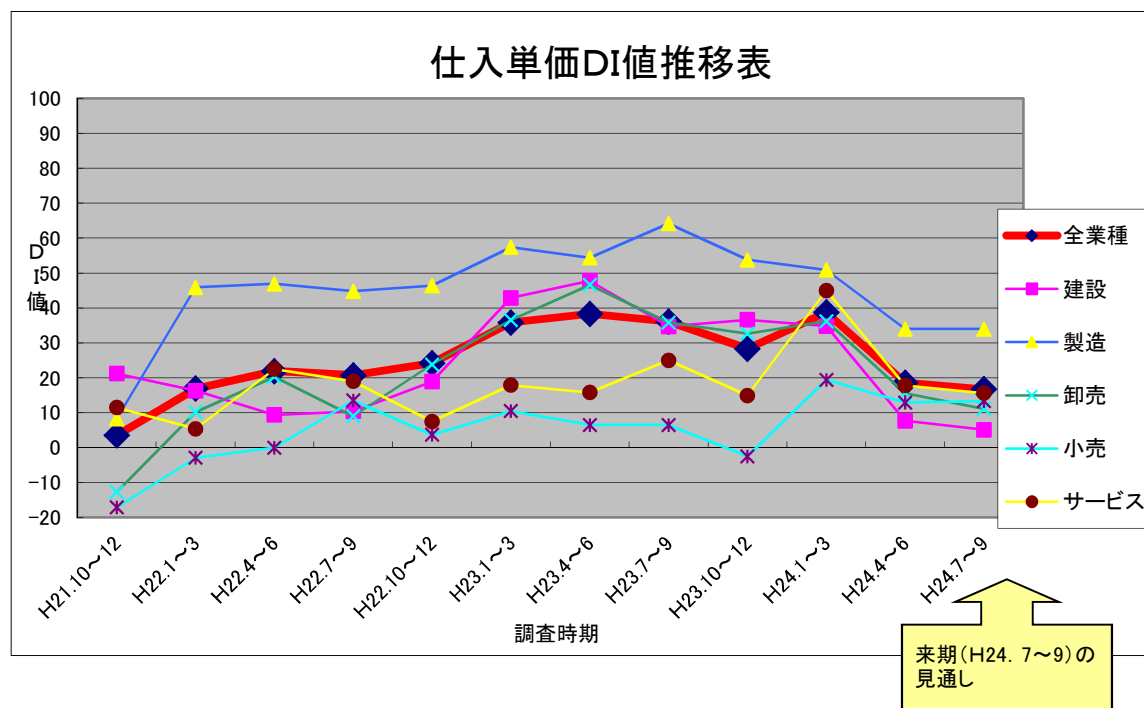
来期(H24. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲44. 7と、2. 8P好転する見込み。



今期(H24. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「業況面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は24社(前期比8社増)、「悪化した」と回答した企業は104社(前期比13社減)、「横ばいである」と答えた企業は88社(前期比3社減)であった。DI値を見ると、▲37. 0となり、前期比で8. 1P好転した。

業種別に見ると、建設業▲47. 6(前期比7. 7P好転)、製造業▲21. 6(前期比20. 0P好転)、卸売業▲28. 9(前期比13. 7P好転)、小売業▲54. 8(前期比9. 7P好転)、サービス業▲40. 4(前期比13. 1P悪化)となった。

来期(H24. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲40. 5と2. 7P好転する見込み。

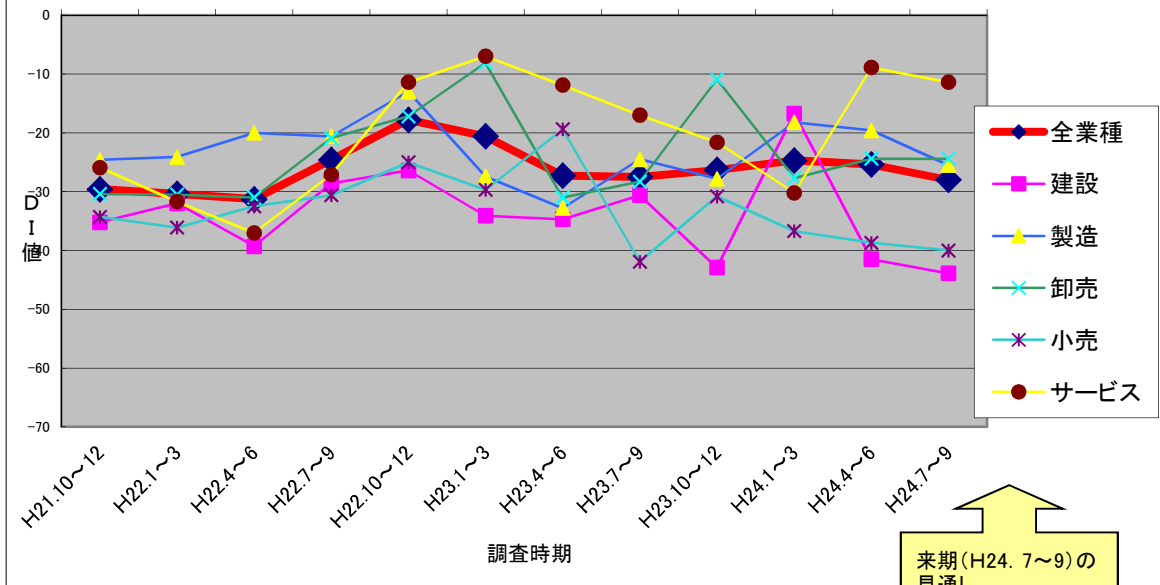


今期(H24. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「仕入単価面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は62社(前期比34社減)、「低下した」と回答した企業は23社(前期比11社増)、「横ばいである」と答えた企業は125社(前期比16社増)であった。DI値を見ると、18. 6となり、前期比で20. 1P悪化した。

業種別に見ると、建設業7. 7(前期比27. 1P悪化)、製造業34. 0(前期比16. 9P悪化)、卸売業15. 6(前期比20. 6P悪化)、小売業▲12. 9(前期比6. 5P悪化)、サービス業17. 8(前期比27. 2P悪化)となった。

来期(H24. 4~6)の見通しでは全業種DI値は34. 4と12. 0P好転する見込み。

### 資金繰りDI値推移表



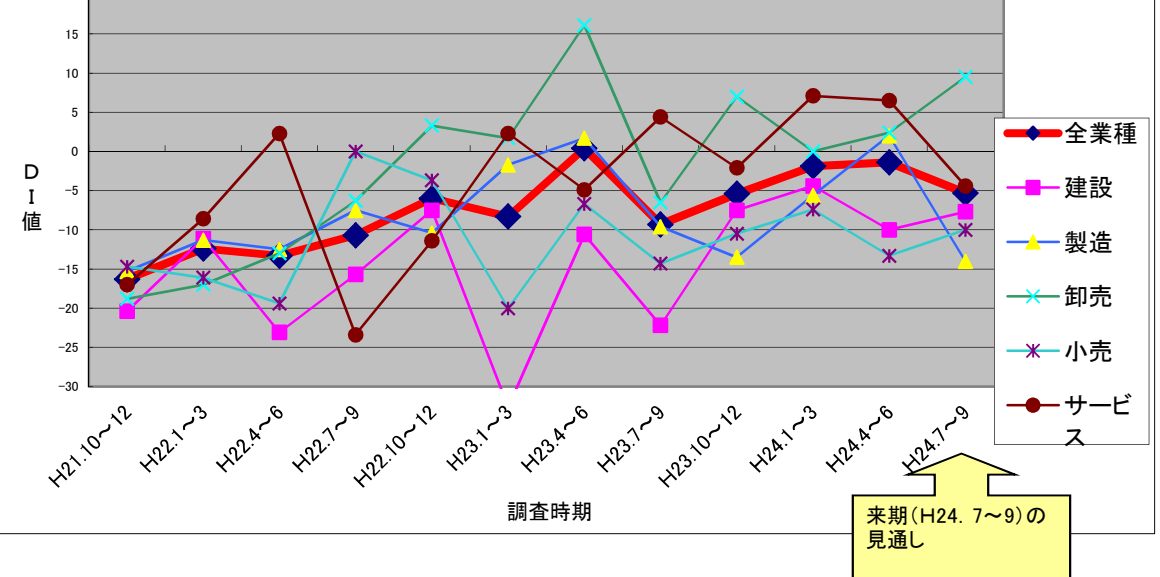
来期(H24. 7~9)の見通し

今期(H24. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「資金繰り面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は13社(前期比5社増)、「悪化した」と回答した企業は67社(前期比4社増)、「横ばいである」と答えた企業は133社(前期比19社減)であった。DI値を見ると▲25. 4となり、前期比で0. 7P好転した。

業種別に見ると、建設業▲41. 5(前期比24. 8P悪化)、製造業▲19. 6(前期比1. 4P悪化)、卸売業▲24. 4(前期比3. 3P好転)、小売業▲38. 7(前期比2P悪化)、サービス業▲8. 9(前期比21. 3P好転)となった。

来期(H24. 7~9)の見通しでは全業種DI値は▲28. 0と0. 5P悪化する見込み。

### 従業員数DI値推移表

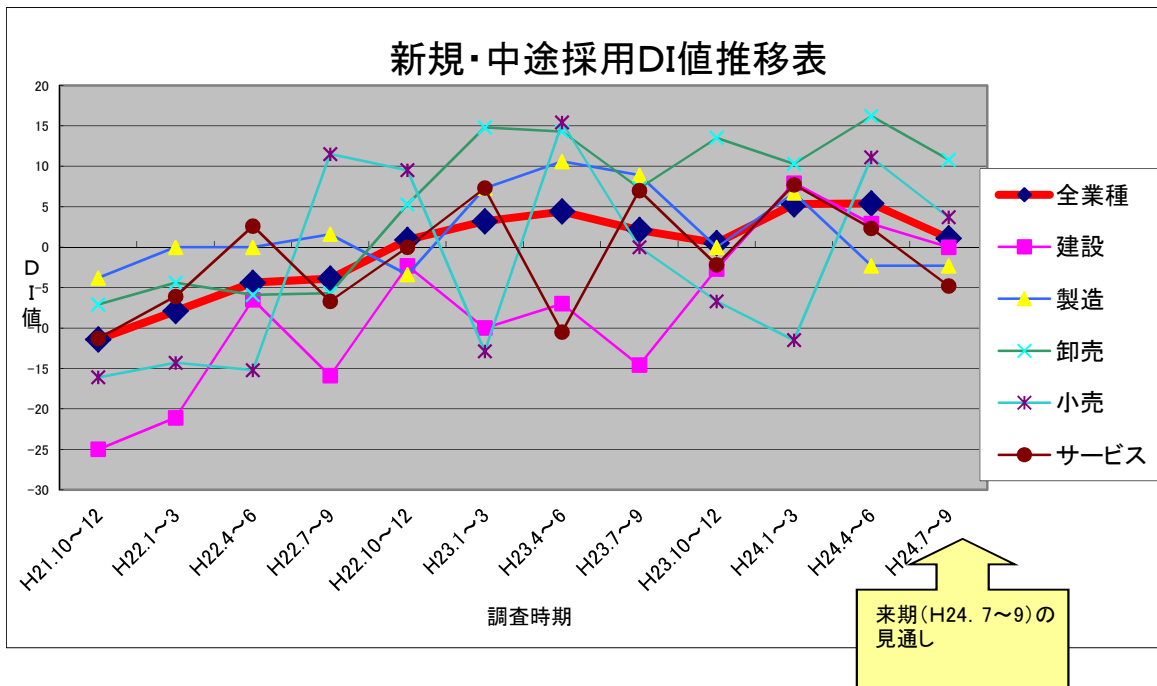


来期(H24. 7~9)の見通し

今期(H24. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「従業員数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は35社、「減少した」と回答した企業は38社、「横ばいである」と答えた企業は135社であった。DI値は▲1. 4となった。

業種別に見ると、建設業▲10. 0、製造業▲2. 0、卸売業2. 4、小売業▲13. 3、サービス業6. 5となった。

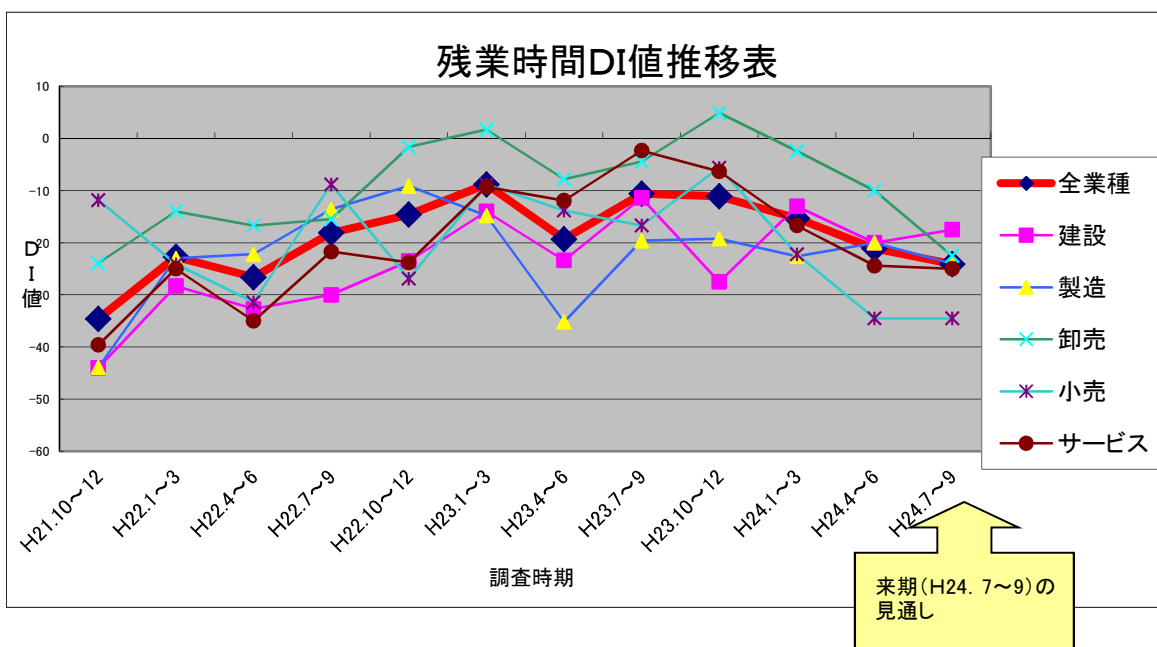
来期(H24. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲5. 3となる見込み。業種別に見ると、建設業▲7. 7、製造業▲14. 0、卸売業9. 5、小売業▲10. 0、サービス業▲4. 4となる見込み。



今期(H24. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「新規・中途採用面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は28社、「減少した」と回答した企業は1816社、「横ばいである」と答えた企業は138社であった。DI値は、5.4となった。

業種別に見ると、建設業2.9、製造業▲2.3、卸売業16.2、小売業11.1、サービス業2.3となった。

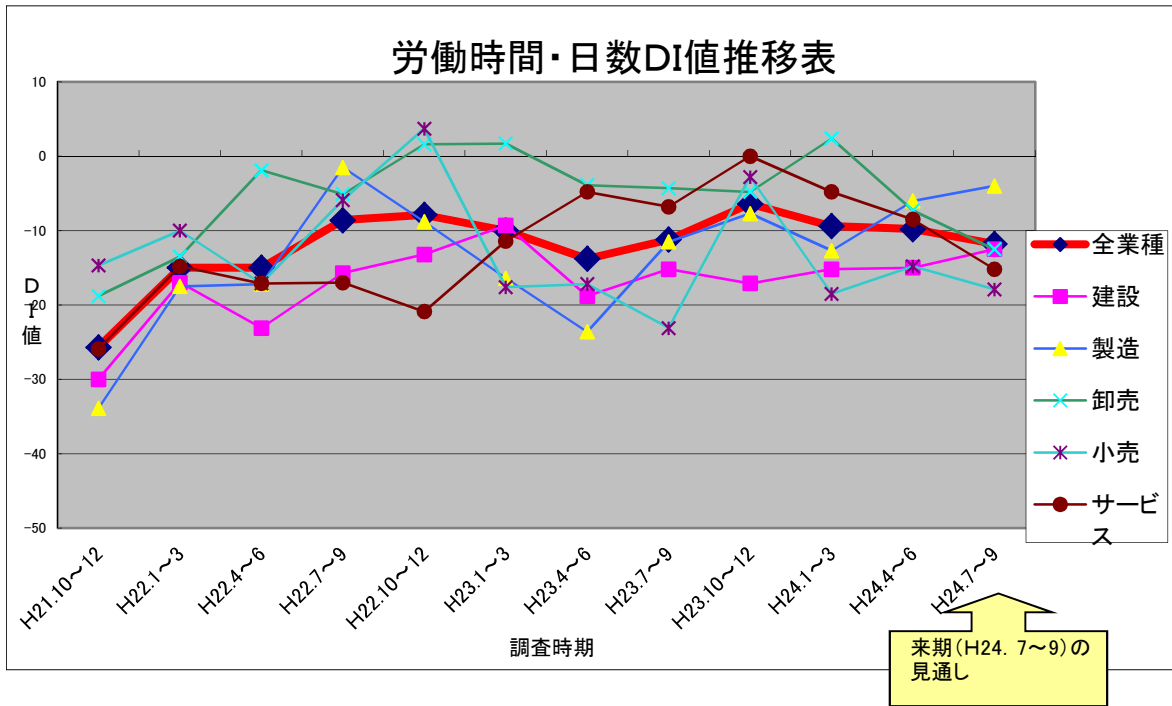
来期(H24. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は1.1となる見込み。業種別に見ると、建設業0.0、製造業▲2.3、卸売業10.8、小売業3.7、サービス業▲4.8となる見込み。



今期(H24. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「残業時間面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は13社、「減少した」と回答した企業は56社、「横ばいである」と答えた企業は135社であった。DI値は▲21.1となった。

業種別に見ると、建設業▲20.0、製造業▲20.0、卸売業▲10.0、小売業▲34.5、サービス業▲24.4となった。

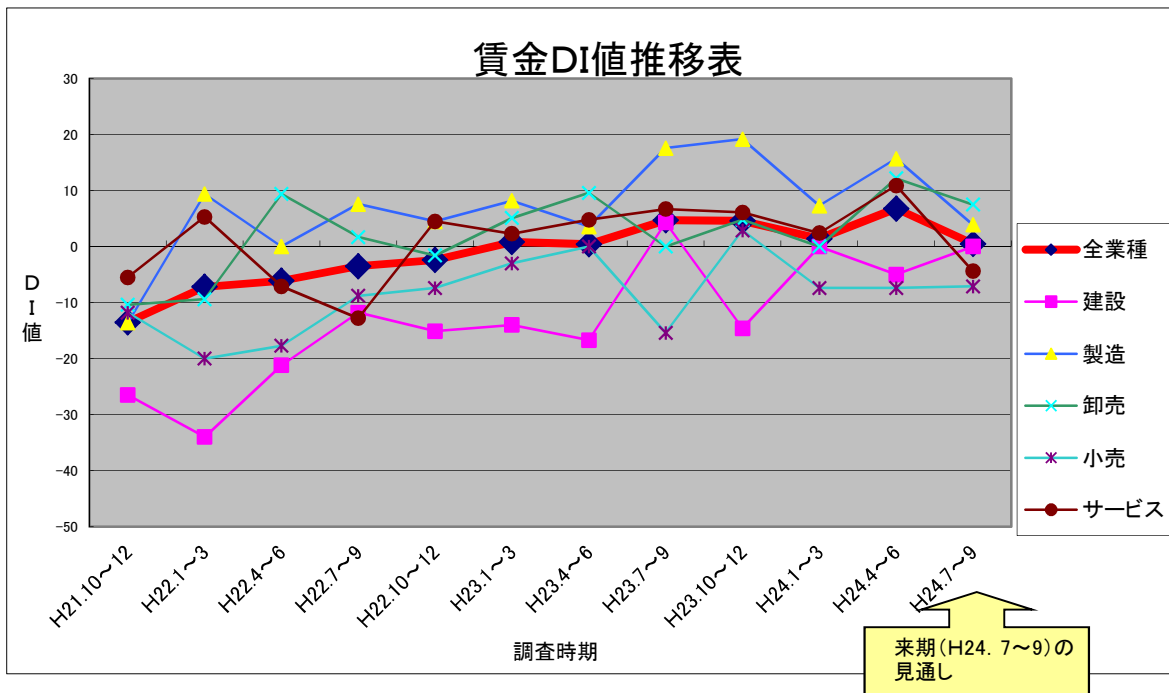
来期(H24. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲24.1となる見込み。業種別に見ると、建設業▲17.5、製造業▲24.0、卸売業▲22.5、小売業▲34.5、サービス業▲25.0となる見込み。



今期(H24. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「労働時間・日数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は12社、「減少した」と回答した企業は32社、「横ばいである」と答えた企業は161社であった。DI値は▲9. 8となった。

業種別に見ると、建設業▲15. 0、製造業▲6. 0、卸売業▲7. 3、小売業▲14. 8、サービス業▲8. 5となった。

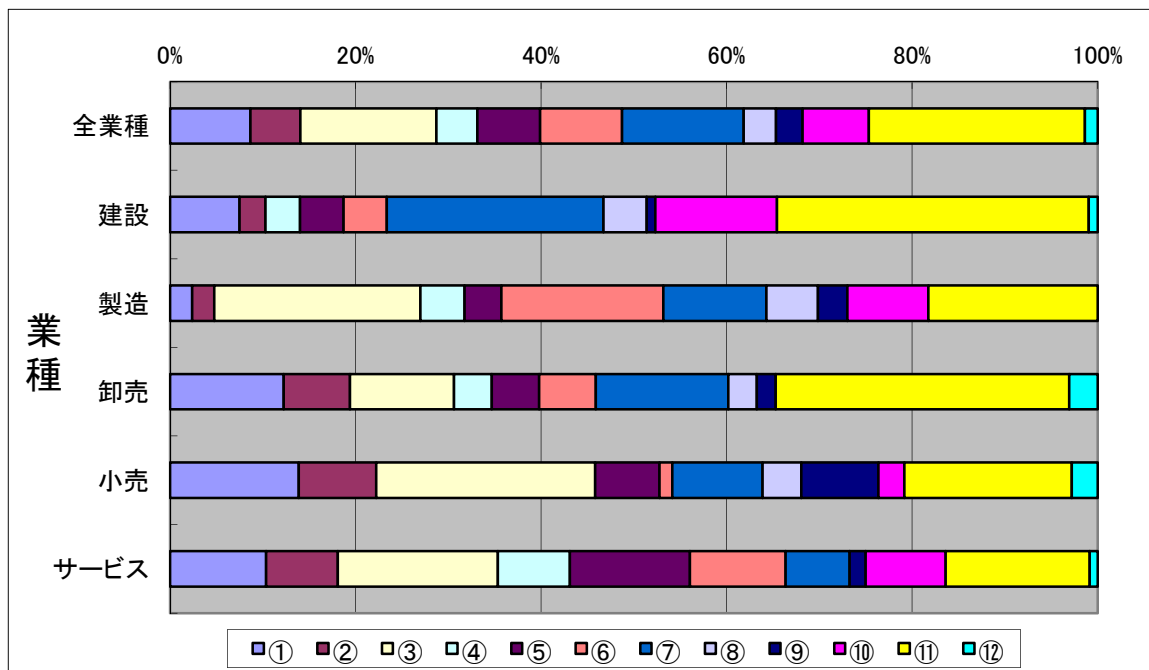
来期(H24. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は▲11. 8となる見込み。業種別に見ると、建設業▲15. 0、製造業▲4. 0、卸売業▲12. 5、小売業▲17. 9、サービス業▲15. 2となる見込み。



今期(H24. 4~6)の久留米市地場企業景況調査で「賃金面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は36社、「減少した」と回答した企業は22社、「横ばいである」と答えた企業は147社であった。DI値は6. 8となった。

業種別のDI値では、建設業▲5. 0、製造業15. 7、卸売業12. 2、小売業▲7. 4、サービス業10. 9となった。

来期(H24. 7~9)の見通しでは、全業種DI値は0. 5となる見込み。業種別に見ると、建設業0. 0、製造業3. 9、卸売業7. 5、小売業▲7. 1、サービス業▲4. 4となる見込み。



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他  
 今期(H24. 4～6)の経営上の悩みとしては、「需要の停滞(23. 3%)」「消費者ニーズの変化(14. 6%)」を指摘する声が多く寄せられている。  
 特に、「需要の停滞」は建設業(33. 3%)、製造業(18. 3%)、卸売業(31. 6%)、小売業(16. 3%)サービス業(15. 5%)と全業種で意見が集中した。

<事業所から寄せられた主なコメント>

【建設業】

「若手技術者の確保が難しい」(一般土木建築工事業)  
 「官公需要が減少し、売上が減少している」(一般土木建築工事業)

【製造業】

「熟練技術者の確保が難しい」(電子部品・デバイス製造業)  
 「従業員の高齢化に伴い人件費が上昇している」(一般産業用・機械製造業)

【卸売業】

「ネット販売の台頭による販売競争の激化」(一般機械器具卸売業)  
 「大手企業の撤退で大幅に受注が減少した」(他に分類されない卸売業)  
 「取引先より支払条件の変更を申し込まれ、資金繰りが厳しくなった」(医薬品・化粧品等卸売業)

【小売業】

「消費低迷と叫ばれているが、強い会社をつくるため常に経営改善を行っている」(婦人・子供服小売業)  
 「大型店志向が強くなっていると感じるが、専門店の強みをアピールできる施策を検討中」(衣料品・化粧品小売業)  
 「大型店の出店により売上、利益が減少した」(機械器具小売業)

【サービス業】

「来店頻度の低下した」(理容業)  
 「世の中の流れが、外食から内食志向へ移行していると感じる」(菓子・パン小売業)